

資料3

平成24年度 常磐公園樹木調査診断書(河川空間)

Zone	H23 調査 判定	NO.	樹種	径 (cm)	周長 (cm)	樹高 (m)	枝下 高 (m)	地上部の衰退度評価項目											衰退度	衰退度 区分	倒木、枝折れ等危険度判定					総合診断	
								樹勢	樹形	枝の 伸張量	梢や上枝 の先端の 枯損	下枝の 先端の 枯損	大枝・幹 の欠損	枝葉の 密度	葉(芽)の 大きさ	葉色	樹皮の傷 (剥皮・ 壊死)	樹皮の 新陳代謝			胴吹き ひこばえ	通行者・ 建物等との 位置関係	根返り	幹折れ	大枝折れ		中小枝 落下
6-1	×	275	イタヤカエデ	26	78	8		2	2	1	2	2	2	2	2	1	3	3	4	2.2		0	1	2	1	1	主幹を伐採し健全な方を残す方法もあるが樹形のバランスは大きく崩れる
6-1	×	276	イタヤカエデ	18		6																					
6-1	×	277	イタヤカエデ	44	132	12		4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3.9		1	1	3	2	2	幹折れの危険大であり、伐採と判断
6-1	×	112	イゾヤマザクラ	38																枯死		1	3	3	2	2	枯損、永年がんしゅ病、腐朽約60%、上部枝折れ
6-1	×	113	イゾヤマザクラ	17		8																					
6-1	×	115	イゾヤマザクラ	18	114	10		1	1	2	1	1	1	1	1	1	3	2	4	1.6		1	0	1	1	0	永年がんしゅ病の発達、腐朽の進行より、伐採と判断
6-1	×	121	イゾヤマザクラ	13		6																					
6-1	×	122	イゾヤマザクラ	18	42	7		2	1	2	2	2	0	1	2	0	2	1	0	1.3		2	1	2	0	1	幹折れの危険あり、伐採が必要と判断
6-1	×	125	イゾヤマザクラ	10	30	1.4		3	3	4	4	3	4	3	2	1	3	3	3	3.0		0	0	1	0	1	枯幹状態で伐採必要
6-1	×	128	イゾヤマザクラ	10	30	4		3	3	4	4	3	4	3	2	1	3	3	3	3.0		0	0	2	0	0	枯幹状態で伐採必要
6-1	×	198	イゾヤマザクラ	19	107	6.5		2	2	2	2	2	0	2	2	1	3	3	4	2.1		0	2	3	2	2	腐朽の進行が著しく伐採を選択
6-1	×	251	イゾヤマザクラ	20																枯死		0	1	3	2	3	チャナタケ、永年がんしゅ病、枯死
6-1	×	237	欧アカマツ	35	105	16		3	2	2	2	3	2	3	2	2	2	3	4	2.5		1	1	1	2	2	根返り、枝折れの危険あり、伐採を選択
6-1		76	シラカバ	20	63	16	4	2	2	1	2	1	1	2	1	1	0	0	0	1.1		0	1	0	1	1	根株腐朽も考慮し、伐採を選択
6-1		78	トロノキ	77	242	30	10	0	1	0	1	1	0	1	0	0	2	2	0	0.7		2	2	0	0	1	転倒、根返りの危険あり、伐採を選択
6-1		79	トロノキ	65	204	32	10	0	1	0	1	1	0	1	0	0	2	2	0	0.7		2	2	2	0	1	根系の腐朽が進行しており、伐採を選択
6-1		85	トロノキ	99	311	28	6	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0.5		2	2	2	1	1	転倒、根返りの危険あり、伐採を選択
6-1	×	133	ニセアカシア	59	185	14		2	2	2	1	2	2	3	3	3	3	3	4	2.5		2	1	2	1	2	幹折れの危険あり、伐採と判断
6-1	×	228	ニセアカシア	16	60	9	5	1	2	2	1	2	2	2	1	1	2	1	4	1.8		1	2	1	1	1	根返りの危険あり、伐採を選択
6-1	×	231	ニセアカシア	26	102	15	4.5	1	2	2	2	2	1	2	1	1	2	1	2	1.6		1	1	2	1	1	幹折れの危険あり、伐採を選択
6-1	×	232	ニセアカシア	65	195	18		1	1	1	0	1	1	2	2	1	2	1	0	1.1		1	1	2	1	1	樹高を下げる伐採剪定が必要 枝張もコンパクトにまとめたら危険回避可能
6-1	×	296	ホブラ	90	270	35		0	1	0	1	1	0	1	0	0	1	1	1	0.6		3	2	3	3	3	転倒、根返りの危険大であり、伐採を選択
6-1	×	297	ホブラ	51	153	32		2	2	2	1	1	3	2	2	1	3	1	4	2.0		3	0	3	3	3	幹折れの危険大であり、伐採を選択
6-1	×	298	ホブラ	60	180	35		1	2	1	2	1	2	1	1	1	2	2	4	1.7		3	1	3	3	3	幹折れの危険大であり、伐採を選択
6-1	×	302	ホブラ	110	330	35		1	1	2	2	1	1	1	1	1	2	1	0	1.2		3	1	3	3	2	幹折れの危険大であり、伐採を選択
6-1	×	320	ホブラ	60																枯死		0	0	0	0	0	枯死
6-1	×	321	ホブラ	70	210	35		2	1	2	2	2	1	2	1	1	2	2	2	1.7		3	1	3	2	3	幹折れの危険あり、伐採を選択
6-1	×	325	ホブラ	90	270	40		2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	1	2	1.8		3	3	3	2	3	転倒、根返りの危険大であり、伐採を選択
6-1	×	323	ミヤマザクラ	23																枯死		1	0	1	0	1	枯れて雪折れ状態
6-2	×	462	モミジ	37	171	24	6.5	2	2	3	0	0	3	2	1	1	3	2	4	1.9		2	1	2	1	1	幹折れの危険あり、伐採を選択

衰退度判定基準

衰退度 区分	判定基準				
	0.8未満	0.8~1.6未満	1.6~2.4未満	2.4~3.2未満	3.2以上
良	やや不良	不良	著しく不良	枯死寸前	

倒木、枝折れ等危険度判定値の凡例

安全	: 0
可能性があり	: 1
可能性が高い	: 2
明らかに危険	: 3

85番 ドロノキ

# 1. 概況調査票

No.	調査日	24年 9月 13日	天候	晴れ	調査者	樹木医 内田則彦							
樹種名	85	ドロキ	科名	ヤナギ科									
学名	Populus maximowiczii Henry		樹木の名称 (愛称)	ドロ、ドロヤナギ									
所在地	旭川市常磐公園内 ZONE 6-1												
所有者 (管理者)	1.国 2.都道府県 3.市区町村 4.その他公共( ) 5.社寺 6.個人 7.会社等 8.その他民有( ) 9.不明												
調査対象木の 状況	1.単木 2.並木(延長 m、列) 3.樹群中(面積 m <sup>2</sup> ) 4.樹林中(面積 ha) 5.生垣(延長 m、高さ m) 6.その他( )												
保護制度	1.なし 2.天然記念物 a.国 b.都道府県 c.市区町村 3.保護・保存樹木・樹林 4.名木指定 a.都道府県 b.市区町村 5.その他( )												
気象状況 (最寄りのアメ タステータ)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	月別平均気温 (平年値)	-7.9	-7.2	-2.3	5.2	11.3	16.4	20.2	21	15.6	8.7	1.8	-4.4
	月別降水量 (平年値)	74.1	51.5	54.1	55.8	65.4	63.8	98.9	137.5	135.8	117.6	120.8	98.9
	年平均気温	6.5℃		最高気温極値			(1989年) 36℃	最低気温極値			(1902年) -41℃		
	年降水量	1074.2mm		温量指数 (暖かさの指数)			63.4℃・月		寒冷指数 (寒さの指数)		-38.6℃・月		
風(特記)	平均2.9m 西北西												
生育環境 の概況	立地場所	1.公園 2.庭園・屋敷林 3.社寺 4.公共施設 5.ビル周辺 6.街路 7.その他( )											
	周囲の状況	1.樹林 a.山林等大面積 b.社叢等小面積 2.芝生 3.耕地 4.建物の間 5.道路 6.河川 7.湖沼 8.その他( )											
	潮風の影響	1.なし 2.ややあり 3.あり 4.やや強 5.強											
	日照条件	1.良 2.普通 3.やや不良 4.不良											
	日照不足 の原因	なし											
	土地の傾斜	1.平坦(0°~5°) 2.緩傾(5°~15°) 3.傾斜(15°~30°) 4.急傾(30°~45°) 5.峻(45°以上)											
		傾斜方向											
	土壌	1.自然土 a.堆積土 b.崩積土 c.削剥土 d.その他( ) 2.盛土客土 3.切土											
	地形	1.山地 2.丘陵地 3.台地 4.低湿地 5.尾根 6.中腹 7.谷 8.窪地 9.扇状地 10.開析低地 11.自然堤防 12.埋立地 13.海岸 14.その他( )											
	基岩・母材												
	根元及び 周囲の植生	草本	1.密生 2.疎 3.なし										
		木本	1.密生 2.疎 3.なし										
	周辺樹木 との関係	1.影響なし 2.わずかに影響を受けている 3.影響を受けている 4.かなり影響を受けている 5.深刻な影響を受けている											
根元近くの 工作物等													

管 理 状 況	1.柵(有・無)、有の場合 a.高さ(          cm) b.材質(          ) c.柵内面積(          m <sup>2</sup> ) d.設置年(          ) 2.支柱(有・無) 3.剪定(強・弱・無) 4.施肥(有・無)、有の場合 a.回数(          ) b.量(          kg) c.種類(          ) 5.薬剤散布(有・無)、有の場合 a.回数(          ) b.種類(          ) 6.解説板(有・無) 7.避雷針(有・無) 8.定期的な草刈り、掃除(有・無) 9.その他(          )					
形 状 寸 法 等	樹 高	28.0 m		主幹胸高(1.2m)周囲	311 cm	
	株立樹木の 株数および 胸高周囲	周15cm以上の の本数		本	樹幹胸高断面積合計	cm <sup>2</sup>
		周15cm以上の 各々の幹周		cm	cm	cm
	枝 下 高	6.0 m		根元高20cmの周囲	cm	
	枝 張 り	E	m・W	m・S	m・N	m
	樹 齢	年		その根拠		
根元の状態	1.裸地 2.草地・地被類 3.灌木・低木 4.舗装 a.砂利・碎石 b.アスファルト・コンクリート c.その他(          ) 5.覆土 厚さ(          ) 土性(          ) 6.その他(          )					
樹木の状態	1.枝枯 a.大枝(多・中・少) b.中枝(多・中・少) c.小枝(多・中・少) 2.空洞(有・無)、有の場合 開口(有・無)、位置(上・中・下) 3.剪定、切断痕 大きさ(          )、量(          ) 4.主幹の傾き 角度(          )、方向(          ) 5.その他(          )					
過去の治療歴 と 内 容						
故 事 ・ い わ れ 等	1.なし 2.信仰対象 a.単木が信仰対象 ア.社・祠あり イ.鳥居あり ウ.しめ縄あり エ.その他(          ) オ.特になし b.樹林等全体が信仰対象 ア.社・祠あり イ.鳥居あり ウ.しめ縄あり エ.その他(          ) 3.禁忌(タブー)(有・無)、有の場合の対象 ア.単木(全体) イ.幹 ウ.枝 エ.実 オ.樹林全体 カ.その他 キ.不明 4.祭事(有・無)(概要:          ) 5.いわれの内容(          ) 6.不明					
視 認 性	1.遠方からも目立つ 2.近くに行けば見える 3.直前まで見えない 4.敷地内に入ると良く見える 5.敷地内に入っても良く見えない、その理由(          )					
特 記 事 項	1.動物生息 (有・無)、動物の種類(          ) 2.着生植物 (有・無)、着生植物の種類(          ) 3.見学・参観者数(          人/年) 4.その他(          )					

## 2. 地上部の衰退度判定票

85 ドロノキ

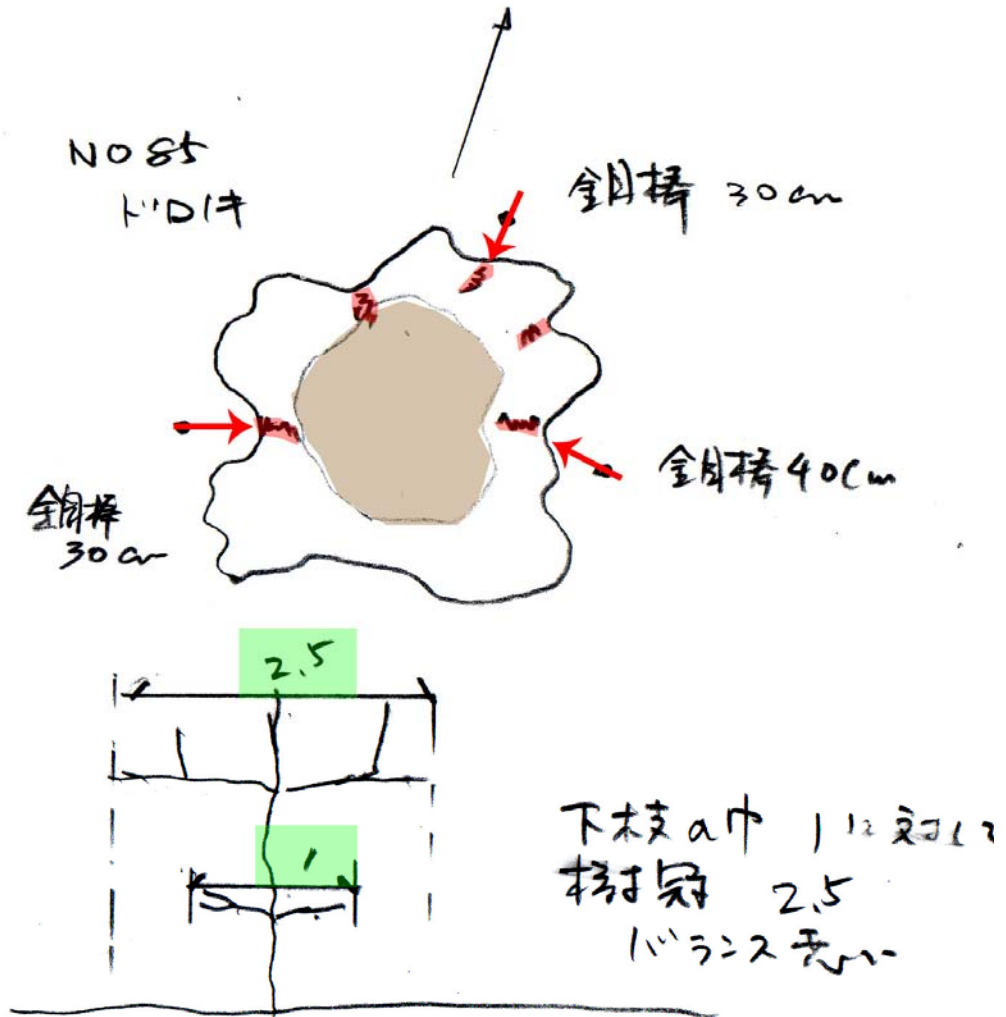
評価項目	評価基準					評点
	0	1	2	3	4	
樹勢	旺盛な生育状態を示し被害が全くみられない	幾分影響を受けているが、あまりめだたない	異常が明らかに認められる	生育状態が極めて劣悪である	ほとんど枯死	0
樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊	1
枝伸張量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり細い	枝は極度に短小、しょうが状の節間がある	下からの萌芽枝のみわずかに成長	0
梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端・主枝がない	0
下枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない	1
大枝・幹の欠損	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ、大きく切断されている	大枝・幹の上半分が欠けている	1
枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスがとれている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯枝が多く葉の発生が少なく著しく疎	ほとんど枝葉がない	1
葉(芽)の大きさ	葉(芽)がすべて十分な大きさ	所々に小さい葉(芽)がある	全体にやや小さい	全体に著しく小さい	わずかな葉(芽)しかなく、それも小さい	0
葉色	全体に濃い緑色を保っている	やや薄い緑色を保っている	黄色、赤褐色の葉が目立つ	大部分が薄い緑色	薄い緑色と黄色、赤褐色のみ	0
樹皮の傷(剥皮・壊死)	傷などほとんどなし	穿孔・傷が少しあるが、あまり目立たない	古傷が残る	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある	1
樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発である	大部分は新鮮だが所々不活発な部分がある	全体に樹皮に活力がない	著しく活力が無く衰弱気味である	樹皮の大部分が壊死	1
胴吹きひこばえ	枝葉量が多く、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹きあるいはひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹き、ひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく、胴吹き、ひこばえも少ない	0
衰退度 = 各項目の評価値の合計 ÷ 評価項目数 (評点を自動計算)						0.5

### 衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
	0.8未満	0.8~1.6未満	1.6~2.4未満	2.4~3.2未満	3.2以上
	良	やや不良	不良	著しく不良	枯死寸前

### 4.3 樹木被害部スケッチ

85 ドロノキ



## 4.5 樹形写真

85トロノキ

東面



西面



南面



北面



#### 4.6 被害・病徴部位等の細部写真

85 ドロノキ



鋼棒貫入30~40cm



鋼棒貫入30~40cm



うどんこ病



### 5. 倒木、枝折れ等危険度判定票

85

ドロキ

項目 \ 段階	安全 (0)	可能性があり (1)	可能性が高い (2)	明らかに危険 (3)
通行者・建物等との位置関係			2	
根 返 り			2	
幹 折 れ			2	
大 枝 折 れ		1		
中 小 枝 落 下		1		
幹 の 傾 斜 の 増 大 (主 幹 の 傾 斜 度)	(      ° )	(      ° )	(      ° )	(      ° )
その他(                      )				

診断方法 (該当するものに○をつける)	目視	木槌等による打診	鋼棒	機械診断
	○	○	○	(使用機械名                      )

# 総合診断

## NO85ドロノキ

北、東、西側に大きく鋼棒の貫入あり(30~40cm)それらはすべて地際入皮部である。また、そこから侵入した腐朽により40%前後、内部の空洞化が進行していると思われる。

樹形的には、下枝の発達がお粗末で下枝1に対して上の枝の(樹冠)の発達が2.5倍ぐらいで樹冠上部が重すぎる傾向にある。

そのため北側への根返りが予想される。樹木の全体的な生育は良好であるが、中間前後で樹皮の不結合、亀裂、樹皮の枯損等がみられる。

また、地表に露出している根上り根は、傷付きが激しくここからも根系に腐朽が侵入していると考え。それと並行して、堤防側へ根が成長しているとは考えにくく堤防反対側のみ成長していることから、根返りを起こす時は、北側(堤防側)へ転倒するか中間部で幹折れを起こすと診断。よって伐採を選択する。

総合診断・考察

302番 ポプラ

# 1. 概況調査票

No.	調査日	24年 9月 18日	天候	晴れ	調査者	樹木医 内田則彦							
樹種名	302	ポプラ	科名	ヤナギ科									
学名	Populus nigra Var. Muenchh		樹木の名称 (愛称)	セイヨウハコヤナギ、イタリアポプラ									
所在地	旭川市常磐公園内 ZONE 6-1												
所有者 (管理者)	1.国 2.都道府県 3.市区町村 4.その他公共( ) 5.社寺 6.個人 7.会社等 8.その他民有( ) 9.不明												
調査対象木の 状況	1.単木 2.並木(延長 m、列) 3.樹群中(面積 m <sup>2</sup> ) 4.樹林中(面積 ha) 5.生垣(延長 m、高さ m) 6.その他( )												
保護制度	1.なし 2.天然記念物 a.国 b.都道府県 c.市区町村 3.保護・保存樹木・樹林 4.名木指定 a.都道府県 b.市区町村 5.その他( )												
気象状況 (最寄りのアメ タステータ)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	月別平均気温 (平年値)	-7.9	-7.2	-2.3	5.2	11.3	16.4	20.2	21	15.6	8.7	1.8	-4.4
	月別降水量 (平年値)	74.1	51.5	54.1	55.8	65.4	63.8	98.9	137.5	135.8	117.6	120.8	98.9
	年平均気温	6.5℃		最高気温極値			(1989年) 36℃	最低気温極値			(1902年) -41℃		
	年降水量	1074.2mm		温量指数 (暖かさの指数)			63.4℃・月		寒冷指数 (寒さの指数)		-38.6℃・月		
風(特記)	平均2.9m 西北西												
生育環境 の概況	立地場所	1.公園 2.庭園・屋敷林 3.社寺 4.公共施設 5.ビル周辺 6.街路 7.その他( )											
	周囲の状況	1.樹林 a.山林等大面積 b.社叢等小面積 2.芝生 3.耕地 4.建物の間 5.道路 6.河川 7.湖沼 8.その他( )											
	潮風の影響	1.なし 2.ややあり 3.あり 4.やや強 5.強											
	日照条件	1.良 2.普通 3.やや不良 4.不良											
	日照不足 の原因	なし											
	土地の傾斜	1.平坦(0°~5°) 2.緩傾(5°~15°) 3.傾斜(15°~30°) 4.急傾(30°~45°) 5.峻(45°以上)											
		傾斜方向											
	土壌	1.自然土 a.堆積土 b.崩積土 c.削剥土 d.その他( ) 2.盛土客土 3.切土											
	地形	1.山地 2.丘陵地 3.台地 4.低湿地 5.尾根 6.中腹 7.谷 8.窪地 9.扇状地 10.開析低地 11.自然堤防 12.埋立地 13.海岸 14.その他( )											
	基岩・母材												
	根元及び 周囲の植生	草本	1.密生 2.疎 3.なし										
		木本	1.密生 2.疎 3.なし										
周辺樹木 との関係	1.影響なし 2.わずかに影響を受けている 3.影響を受けている 4.かなり影響を受けている 5.深刻な影響を受けている												
根元近くの 工作物等													

管 理 状 況	1.柵(有・無)、有の場合 a.高さ(          cm) b.材質(          ) c.柵内面積(          m <sup>2</sup> ) d.設置年(          ) 2.支柱(有・無) 3.剪定(強・弱・無) 4.施肥(有・無)、有の場合 a.回数(          ) b.量(          kg) c.種類(          ) 5.薬剤散布(有・無)、有の場合 a.回数(          ) b.種類(          ) 6.解説板(有・無) 7.避雷針(有・無) 8.定期的な草刈り、掃除(有・無) 9.その他(          )					
形 状 寸 法 等	樹 高	35.0 m		主幹胸高(1.2m)周囲	330 cm	
	株立樹木の 株数および 胸高周囲	周15cm以上の の本数		本	樹幹胸高断面積合計	cm <sup>2</sup>
		周15cm以上の 各々の幹周		cm	cm	cm
	枝 下 高	m		根元高20cmの周囲	cm	
	枝 張 り	E	m・W	m・S	m・N	m
	樹 齢	年		その根拠		
根元の状態	1.裸地 2.草地・地被類 3.灌木・低木 4.舗装 a.砂利・碎石 b.アスファルト・コンクリート c.その他(          ) 5.覆土 厚さ(          ) 土性(          ) 6.その他(          )					
樹木の状態	1.枝枯 a.大枝(多・中・少) b.中枝(多・中・少) c.小枝(多・中・少) 2.空洞(有・無)、有の場合 開口(有・無)、位置(上・中・下) 3.剪定、切断痕 大きさ(          )、量(          ) 4.主幹の傾き 角度(          )、方向(          ) 5.その他(          )					
過去の治療歴 と 内 容						
故 事 ・ い わ れ 等	1.なし 2.信仰対象 a.単木が信仰対象 ア.社・祠あり イ.鳥居あり ウ.しめ縄あり エ.その他(          ) オ.特になし b.樹林等全体が信仰対象 ア.社・祠あり イ.鳥居あり ウ.しめ縄あり エ.その他(          ) 3.禁忌(タブー)(有・無)、有の場合の対象 ア.単木(全体) イ.幹 ウ.枝 エ.実 オ.樹林全体 カ.その他 キ.不明 4.祭事(有・無)(概要:          ) 5.いわれの内容(          ) 6.不明					
視 認 性	1.遠方からも目立つ 2.近くに行けば見える 3.直前まで見えない 4.敷地内に入ると良く見える 5.敷地内に入っても良く見えない、その理由(          )					
特 記 事 項	1.動物生息 (有・無)、動物の種類(          ) 2.着生植物 (有・無)、着生植物の種類( ヤブガラシ ) 3.見学・参観者数(          人/年) 4.その他(          )					

## 2. 地上部の衰退度判定票

302 ポプラ

評価項目	評価基準					評点
	0	1	2	3	4	
樹勢	旺盛な生育状態を示し被害が全くみられない	幾分影響を受けているが、あまりめだたない	異常が明らかに認められる	生育状態が極めて劣悪である	ほとんど枯死	1
樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊	1
枝伸張量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり細い	枝は極度に短小、しょうが状の節間がある	下からの萌芽枝のみわずかに成長	2
梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端・主枝がない	2
下枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない	1
大枝・幹の欠損	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ、大きく切断されている	大枝・幹の上半分が欠けている	1
枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスがとれている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯枝が多く葉の発生が少なく著しく疎	ほとんど枝葉がない	1
葉(芽)の大きさ	葉(芽)がすべて十分な大きさ	所々に小さい葉(芽)がある	全体にやや小さい	全体に著しく小さい	わずかな葉(芽)しかなく、それも小さい	1
葉色	全体に濃い緑色を保っている	やや薄い緑色を保っている	黄色、赤褐色の葉が目立つ	大部分が薄い緑色	薄い緑色と黄色、赤褐色のみ	1
樹皮の傷(剥皮・壊死)	傷などほとんどなし	穿孔・傷が少しあるが、あまり目立たない	古傷が残る	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある	2
樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発である	大部分は新鮮だが所々不活発な部分がある	全体に樹皮に活力がない	著しく活力が無く衰弱気味である	樹皮の大部分が壊死	1
胴吹きひこばえ	枝葉量が多く、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹きあるいはひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹き、ひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく、胴吹き、ひこばえも少ない	0
衰退度 = 各項目の評価値の合計 ÷ 評価項目数 (評点を自動計算)						1.2

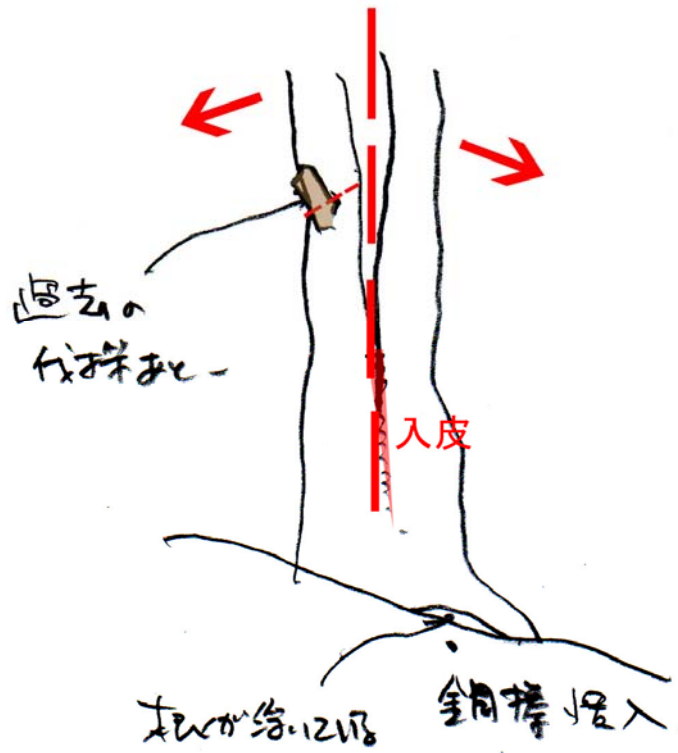
### 衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
	0.8未満	0.8~1.6未満	1.6~2.4未満	2.4~3.2未満	3.2以上
	良	やや不良	不良	著しく不良	枯死寸前

### 4.3 樹木被害部スケッチ

302 ポプラ

NO302 ポプラ



## 4.5 樹形写真

302 ポプラ

東面



西面



南面



北面



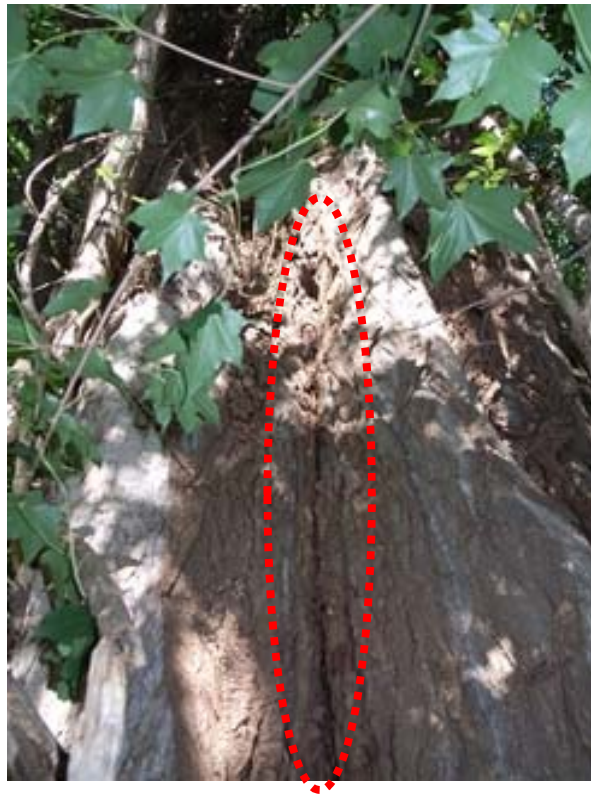
#### 4.6 被害・病徴部位等の細部写真

302 ポプラ

鋼棒貫入30cm



入皮より腐朽侵入



5. 倒木、枝折れ等危険度判定票

302

ポプラ

項目 \ 段階	安全 (0)	可能性があり (1)	可能性が高い (2)	明らかに危険 (3)
通行者・建物等との位置関係				3
根 返 り		1		
幹 折 れ				3
大 枝 折 れ				3
中 小 枝 落 下			2	
幹 の 傾 斜 の 増 大 (主 幹 の 傾 斜 度)	(      ° )	(      ° )	(      ° )	(      ° )
その他(                      )				

診断方法 (該当するものに○をつける)	目視	木槌等による打診	鋼棒	機械診断
	○	○	○	(使用機械名                      )

# 総合診断

## NO302ポプラ

樹木中間部で枝枯れ多し。隣接する樹木の関係上一番日当たりが悪い部分と考える。

谷側の支持根下に鋼棒30cm貫入し根系に腐朽空洞化進行中と判断する。

幹は、大きく2又になり樹皮は、入皮状となりその部分がやせ細った状態になっている。

【樹木が、生長し幹の直径が増えても材の生長に使えるエネルギーは増えず、

力学的に高い負荷がかかって応力の働いている部分に優先的に材をつける

生長方法をとる。太い枝や太い根がつながっているところは強い応力が働いて

盛んに材をつけて太くなる。】

本来入皮下部は、幹と枝の形成層の生育を妨げられそれを補うために幹と枝の

側面が生長し盛り上がるはずであるが、くぼんで樹皮の生育がとまりスベリン化が

進行していると言う事は樹勢がだいぶ弱ってきたと判断する。

また、谷側の土壌は流れて若干すいているし鋼棒の貫入も容易で根系の腐朽も

進んでいると判断する。今後、谷側の幹半分が裂けて倒れるか、中間部より幹折れ

が起こる(山側の幹が伐採痕の部分から)以上により伐採を選択する。

総合診断・考察